

ポストコロナのインバウンド

Every cloud has a silver lining

一般財団法人 国際観光サービスセンター
辻村 由佳

過去にもインバウンドが激減する出来事はたくさんあった…

2001年アメリカ同時多発テロ

2003年のSARS、リーマンショック

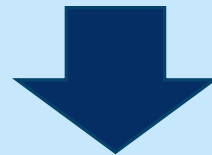
2009年の新型インフル

2011年東日本大震災

2012年尖閣諸島の問題

2019年ホワイト国除外措置で韓国との関係が悪化

⇒いつかコロナは終息しインバウンド客は必ず戻る。しかし今回のように長期的、でスケールの桁違いな衝撃の後には回復も段階的に。



もう以前と同じようなやり方には戻れない

観光業界にマーケティング用語が飛び交う

マーケティングの基本

ニーズを徹底的に洗い出し、魅力的な商品開発をする

これをインバウンドに当てはめると…

→外国人観光客が魅力的に思う日本を演出しなくては！

→目標を達成しなくては！

その結果…

外国人が見たいと思っているものをそのまま見せてくれる施設が増えた！

～お膳立てされた観光～

行く前から魅力の予想ができてしまう

思いがけない発見や感動がない

それなりに満足して「日本満喫した！」で終わってしまう

リピートしない

つまらない観光地化

観光は市場が成熟してくると「お客の要望を手軽に満たそう」という方向へ流れていき、魅力が半減してしまうという傾向がある

利休の朝顔



駐車場から入口まで所狭しと日本語と英語で掲げられていたポスター（過剰な宣伝）

unnecessaryカラフルライトアップと遊園地のようなモニュメント（過剰な装飾）

お城や寺などは多言語の表示はできるだけ少なく。観光は空間に価値を認めるもの。（行きすぎた受け入れ環境整備）

飾らないあるがままの日本の観光魅力を磨く
過剰な宣伝、過剰な装飾、行きすぎた受入れ環境整備は必要ない
「これって何？」「えっ？えっー！」と思う余裕を残す



これからはコロナ禍で観光投資は確実に縮小する

★リスクを最低限にできるような安定感を優先したプロモーション

コロナ前にやっていたことは新しく来る訪日客の数を増やす事だけ拘泥して、来てからの旅行の質をあげることがおろそかだった

★来た人が「また来たい」と思い、来た人が「日本はよかったよ」と口コミするプロモーション

それにはなによりも…

リピーターを増やす事が重要

コロナの感染拡大が落ち着いたとしても、しばらくは手探りで動き始めなくてはならない時期が続く

⇒そういう時期に旅行をするのはリピーター

リピーターは、安定的に来てくれて、
日本の魅力を世界に伝えてくれる宣
伝隊になる

コロナ後の旅行形態

- ・ サスティナブルトラベル（可持續旅遊）
 - ・ スロートラベル（慢旅遊）
 - ・ 地方シフト（地方旅遊）
- ・ テーマ旅行SIT（特殊興趣觀光旅遊）

・サステナブルトラベル（可持續旅遊）

コロナのせいで、私たちは「自分が旅行をすることで、旅行先に大きな影響を及ぼす事がある」という事実を認識させられた

観光復活のためには？

★自分も持続可能な開発目標に向けて参加している、という自覚のある旅行、旅行先の地域にプラスになるような旅行、を推進する

★環境や生態系の保護、文化遺産の維持保存、再生可能エネルギー推進、こどもの貧困対策事業などに観光収入の一部がいくような仕組み

⇒そしてそれを見えるようにしていければ良い

・ スロートラベル（慢旅遊）

一つ地域にゆっくり滞在して観光と生活を楽しむ。風のむくまま、気の向くまま。民泊に泊まって、住人の一人になって地元の居酒屋に行き、生活を楽しむような旅行。

⇒地域の再発見

・ 地方シフト（地方旅遊）

欠点はアクセス。電車やバスなどのマストランジットだけではいけない場所が多い。



・ テーマ旅行SIT（特殊興趣観光旅遊）

リピーターの中にはテーマをもって旅行する人がいる
観光イコールただのリフレッシュではないので、戻りが早い

思いがけない発見
Unexpected



想像力をかき立てるワクワク感
Imagination & Excitements



人生を豊かにする体験
Life enriching experience



思いがけない発見

Unexpected

- ・何も考えないで行った場所に予想外に素敵な場所があった、事前に知っていたのとは違う事実を発見した
- ・楽しいですよ、感動してください、と押し付けられたものではなく、自分で発見したことに感動する

⇒もっと何かあるのでは？ ⇒また来たい！

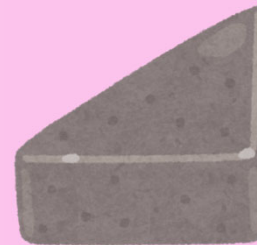
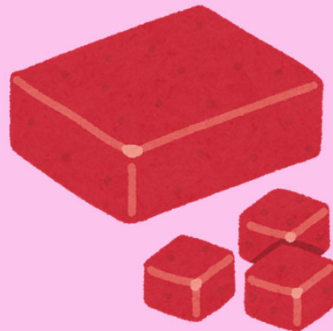
想像力をかき立てるワクワク感 Imagination & Excitements



歴史を感じる建物や調度品にわくわく！



ローカルスーパーはわくわくの宝庫





人生を豊かにする体験

Life enriching experience

初めて雪をみた、凍っている湖をみた

「空から舞い落ちてくる雪を見ないで死んでしまうのなんて絶対にもったいない！」

現地の人との触れ合いは人生を豊かにする
マナーや習慣が違う事も視点を変えて物事をみる機会になる





背景にあるストーリーの 発信



地域の再発見

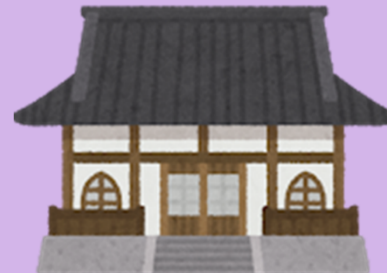
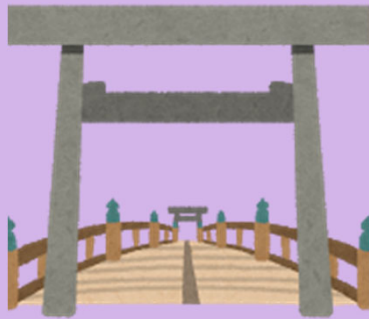


背景にあるストーリーの発信

文化や物事の背景を知ると、見え方が違ってくる

知識を積み上げてから見直してみると、イマジネーションがふくらむ

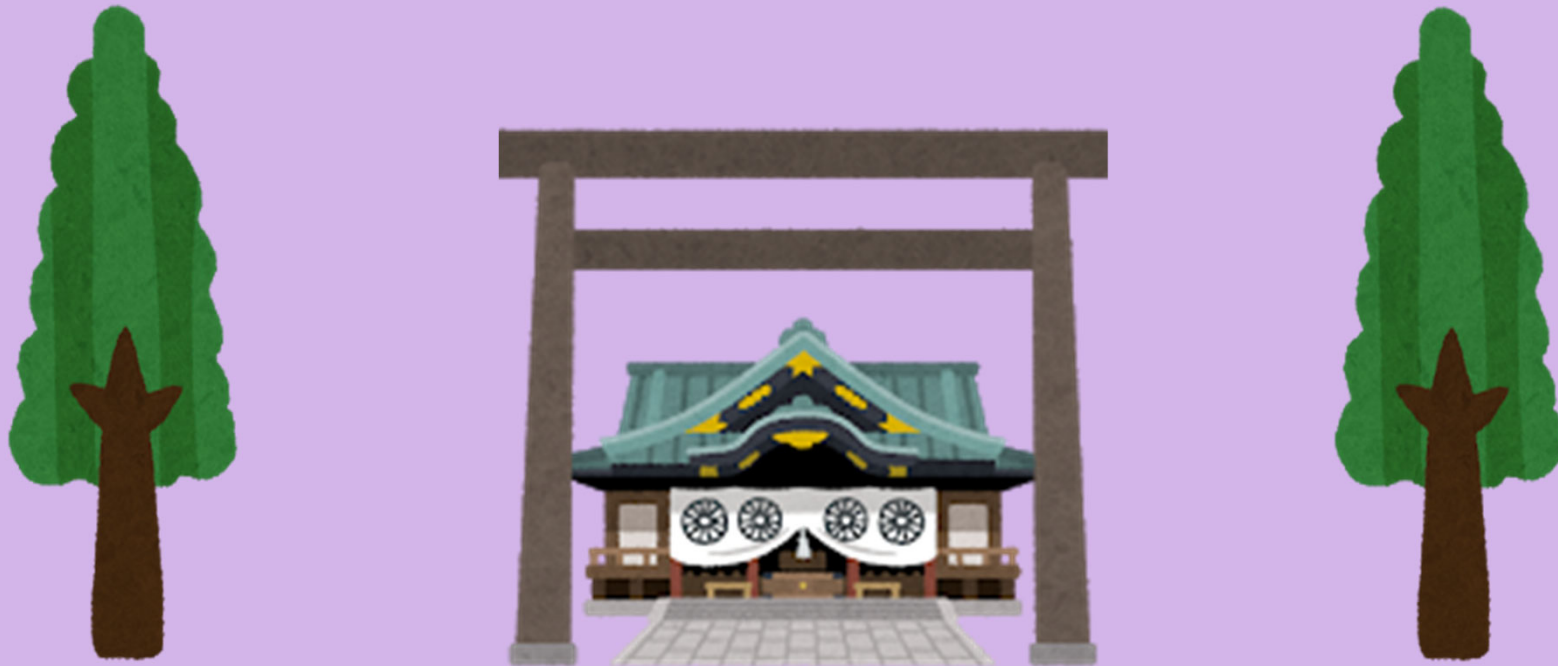
それまで興味がなかったことがわくわくの種になる



中国でお寺はたくさん見たからお寺はもういい・・・

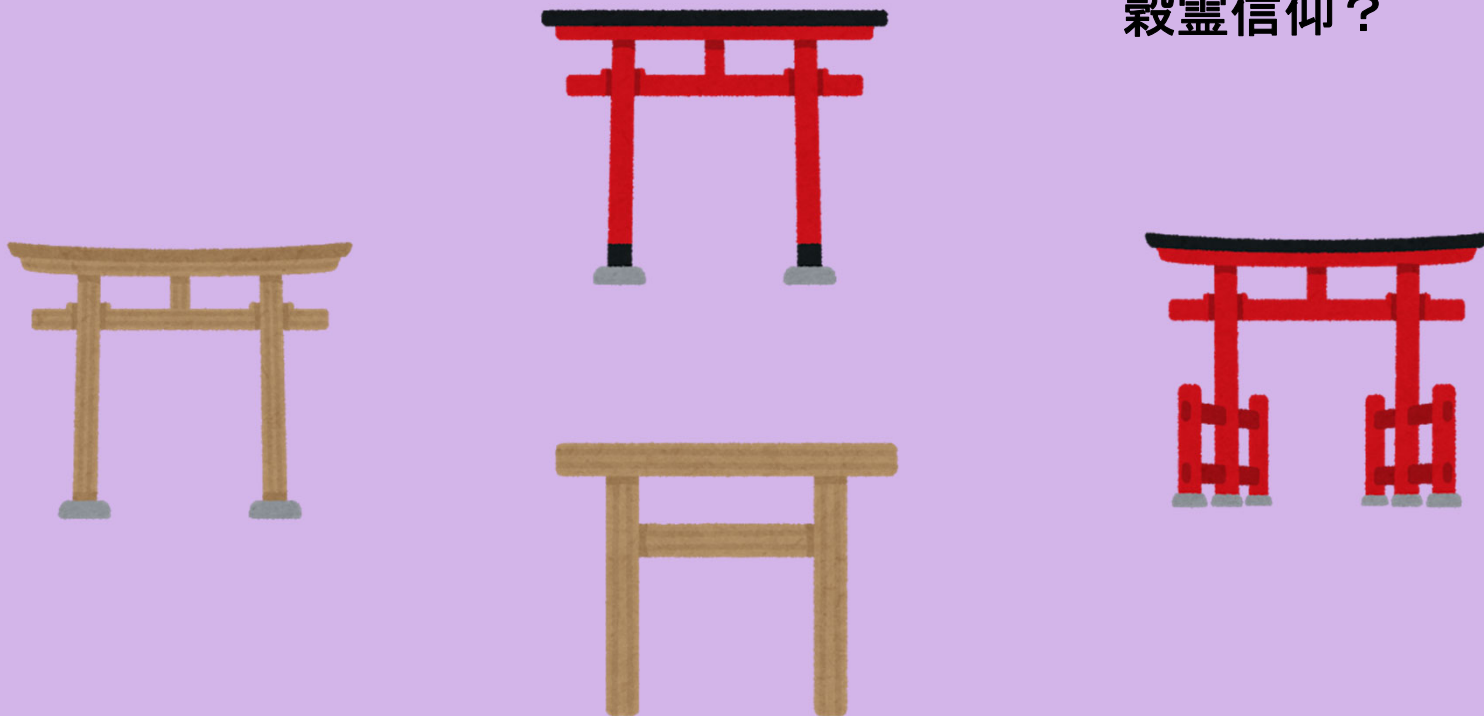
日本の寺社建築は木目など素材の質感を大切にして、柱を朱や金で塗装していないことが多い

神社の柱そのものも中心にある神を守っている神の一つだから



鳥居は俗世界と神様の世界をわける結界

天の岩戸を開かせた鳥がとまった止まり木？



穀霊信仰？

構造は単純だがバランスのよい構造美がある

お稲荷様は五穀豊穡の神様

倉稲魂命（うかのみたまのみこと）



- ・稲荷はもともと「稲成」だった

- ・雷（稲妻）の効用



美しさと耐震性を備えたすばらしい建築物、

五重塔

日本には明治以前に建てられた五重塔が22、三重の塔もいれ
ると127あるが、どちらも地震で倒れた例はない

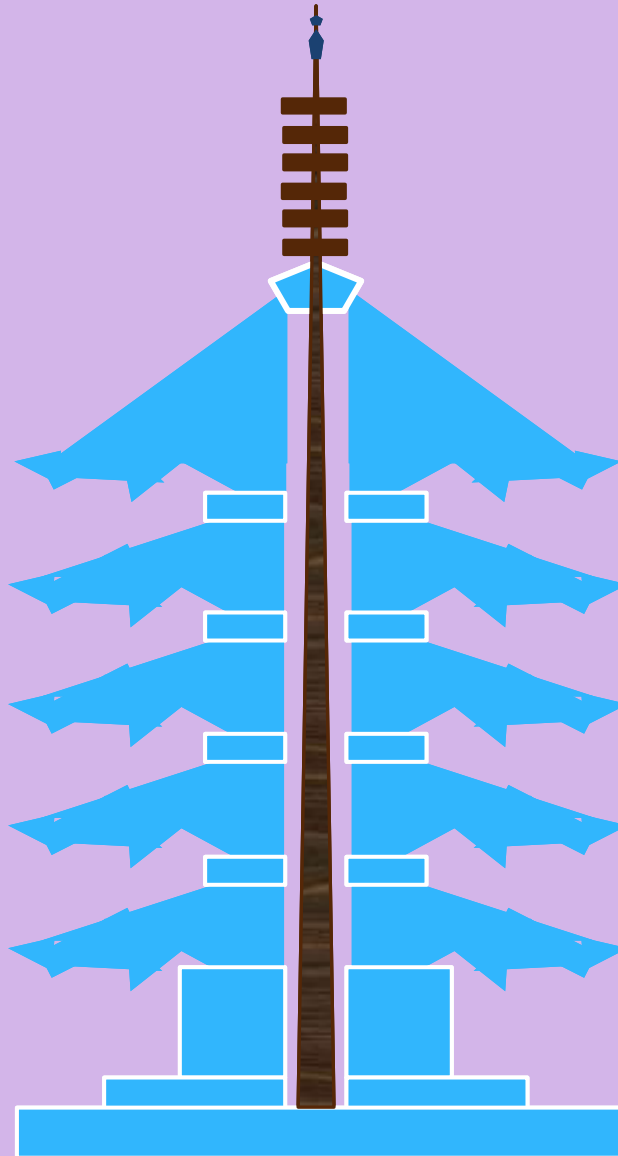
中国は石塔が多いが、日本は揺れに柔軟な木材を使ったもの
が多い（木組みによる伝統工法）

中国の塔は床があって上層まで登れるが日本
の五重の塔は内部が空洞

各層も独立していて全部が柱でつながって
いない



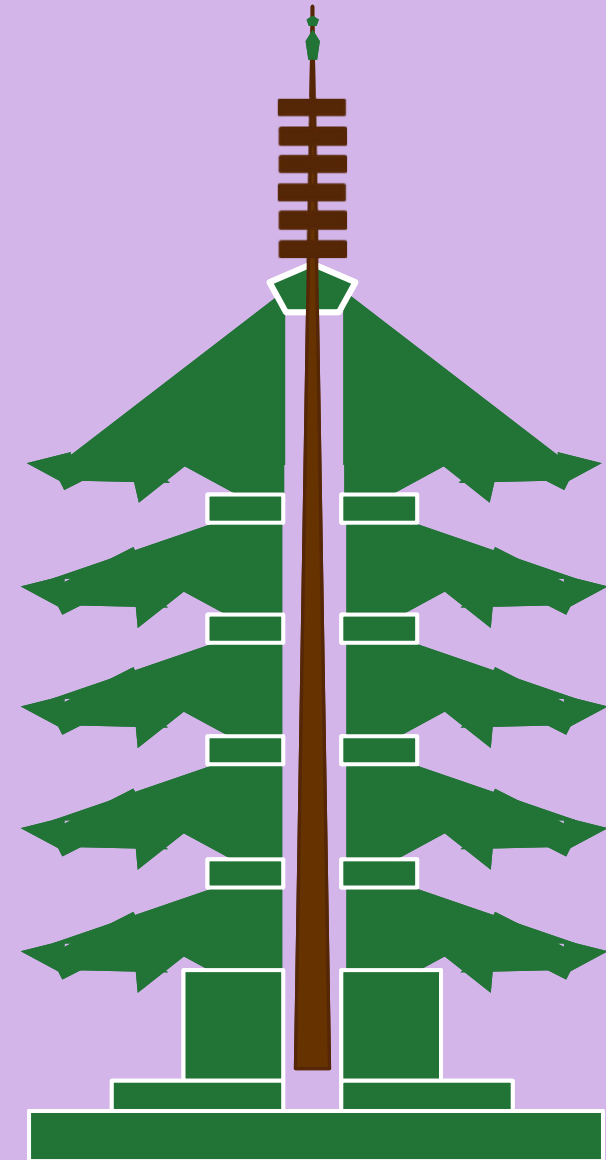
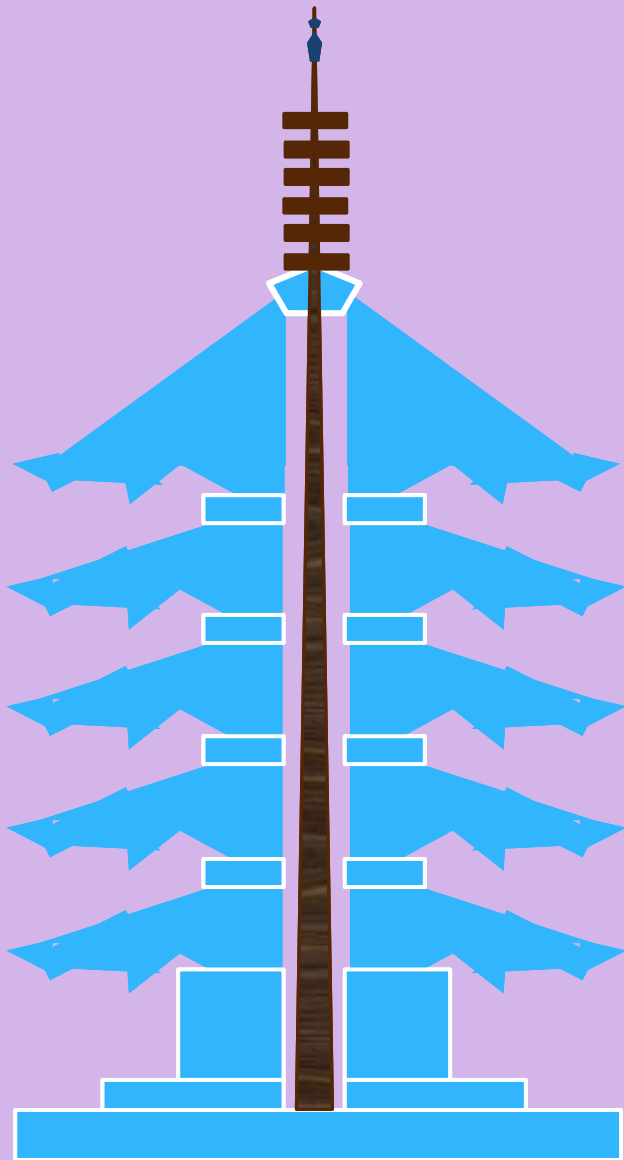
日本の五重塔の内部構造



中央に心柱が貫通しているが、心柱の周辺は空洞になっている

層がただ単純に重ねられているので、一層目が右に動くと二層目は左と互い違いにゆれて衝撃を吸収する

スカイツリーの耐震構造は「心柱制振」



The first Dutchman in Japan

八重洲のヤン・ヨーステン



ヤン・ヨーステン・ファン・ローデンスティン(1556-1623)

1600年（慶長5年）にウィリアム・アダマス（三浦按針）とリーフデ号で漂着

徳川家康に信頼され、八重洲のあたりに家をもらって住んだ
日本名「耶楊子（やようす）」が住んでいたから「八重洲」となった

八重洲地下街に銅像、八重洲通り、中央通り交差点に記念碑、
丸ビル自転車置き場にリーフデ号



シドッチ神父と親指のマリア (Father Sidotti & Madonna of the Thumb)



ジョバンニ・バッティスタ・シドッチ (1668-1714)

1708年（宝永5年）に屋久島に上陸

すぐに捕まって新井白石の尋問を受ける

白石の助言で死罪は免れ、小石川の切支丹屋敷へ幽閉

最後は地下牢で衰弱死してしまう

2014年に切支丹屋敷跡で300年ぶりに遺骨が見つかる

シドッチが持っていた「親指のマリア」像は東京国立博物館に
屋久島にはシドッチ上陸地の碑がある

お雇い外国人 (O-yatoi Gaikokujin)

ポール・ブリューナ (富岡製糸場の設立)



リチャード・ブラントン (日本灯台の父)



エルヴィン・フォン・ベルツ (草津温泉、ベルツ日記)



ドイツ人医師、東大で医学を教えていた
草津温泉を評価して世界に紹介
日本人女性の花子と結婚
日本の文化を高く評価



ベルツ博士の言葉「自国の文化を軽視すればかえって外国からの信頼は得られなくなる。今必要なのは日本の文化を正しく理解し、これをどう生かしていくかを考える事だ。」